

次世代を担う人材の育成を目指して

山梨県鉄筋工事協同組合

県内の11社と都内1社の鉄筋工事業者により山梨県鉄筋工事協同組合(沼田三郎理事長)が、昨年末に設立された。鉄筋工事業の組合は山梨県では初めての設立となる。

鉄筋工事は橋脚やトンネル、マンションなどコンクリート構造物の基礎部分を構成するために無くてはならない業種であるが、近年、鉄筋工事の技能工が減少し続けており、県内鉄筋工事業界の存続が危ぶまれている。

鉄筋工事は建物やコンクリート構造物の基礎工事であり、建築全般の知識の上に強度計算などの専門的知識を要し、施工図の作成や工場での前段取り・加工、現場での施工技術と多くの技術力が必要とされる。施工管理者(専任技術者)には国家資格が必要と

されているだけでなく、現場で施工を行う技能工も時間をかけて育てていかなければならず、人材不足の状態が続くと、将来的には県内で建設工事が滞ることも危惧される。

山梨県の鉄筋工事業者が安定して事業を行うためには、人材採用と育成、技術レベルの底上げや維持に業界として取り組んでいかなければならないという危機感があり、今回の組合設立に至った。

理事長に就任した沼田三郎氏(㈱沼田鉄筋 代表取締役会長)は、「本県の鉄筋工事業者はほとんどが小規模で従業員が少なく、個々の事業者が技術者や技能者の育成を行うことは難しいのが現状。同業者はライバルであるが、業界を取り巻く状況は切迫しており、同業者で力を合わせなければ個々の事業者



理事長 沼田三郎氏

の事業継続も難しいところまで来ている。そこで、志を同じくする鉄筋工事業者が鉄筋施工技術を継承できる体制を業界として整え、若い人材の確保、技術資格取得や施工技術向上の講習会の開催、安全衛生などの教育指導などを積極的に実施し、業界の存続と発展を目指していく。」と語った。

今回の組合設立は全国的に見れば後発であるが、鉄筋工事業界の中で先進的な取り組みとなる期待は大きい。